

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.4 2011年2月28日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

NTT 西日本、多地点テレビ会議装置の販売開始

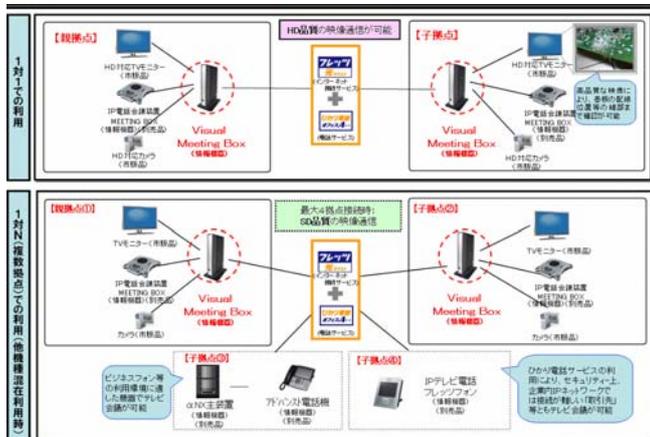
西日本電信電話株式会社(大阪市中央区、NTT 西日本)は、NGN に対応した多地点テレビ会議装置「Netcommunity Visual Meeting Box(ネットコミュニティ ビジュアル ミーティング ボックス)」を2月9日から販売開始すると発表。(2月7日)

Netcommunity Visual Meeting Box は、映像コミュニケーション導入に適した法人向けの製品。「フレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)」を利用した「ひかり電話サービス」などを活用して、本社や営業所、工場、取引先などの拠点間でテレビ会議を行うことができる。



Netcommunity Visual Meeting Box 本体 (NTT 西日本 資料)

映像コーデックは、MPEG4、H.264/MPEG4 AVC に対応し、解像度については、QVGA、QCIF、VGA、そして、720p(HD)に対応している。フレームレートは、最大 30fps。帯域については、解像度に応じて、最大 4Mbps の仕様となっている。



利用イメージ (NTT 西日本 資料)

また、多地点接続機能(MCU)を搭載しており、SD 品質の場合は、最大 3 対向(4 地点間)のテレビ会議が可能だが、HD 品質(720p 15fps)で利用する場合は、1対向(2 拠点間)でのテレビ会議となる。HD 品質使用には、最大 4Mbps の帯域を使用する。

Netcommunity Visual Meeting Box に接続できる端末としては、IP 電話会議装置「MEETING BOX」(販売価格：148,000 円税別)の他、映像通信機能を持った「Netcommunity SYSTEM α NX アドバンスド電話機、NX ソフトフォン」、「フレッツフォン」、「ひかりソフトフォン」、あるいは、NTT ドコモの携帯電話「FOMA 端末」があり、各拠点の利用環境に適した機器を選択できるようになっている。

その他、LAN/WAN ポート(LAN x 3、WAN x 1、帯域 10Mbps/100Mbps)、カメラ入力(NTSC コンポジット x 1、HDMI x 1)、モニター出力(NTSC コンポジット x 1、HDMI x 1)を搭載。

寸法は、約 43mm(幅) x 約 275mm(高) x 約 210mm(奥行き)。質量は、約 1kg。

Netcommunity Visual Meeting Box の販売価格は、298,000 円。販売対象は、NTT 西日本営業エリア。販売予定数は、年間約 100 台。

日本 HP、ユニファイドコミュニケーション & コラボレーションソリューションのポートフォリオを強化

日本ヒューレット・パッカード株式会社(東京都千代田区)は、ユニファイドコミュニケーション & コラボレーション(UC&C)ソリューションのポートフォリオを強化すると発表した。(2月7日)

このソリューションは、音声通話、電子メール、インスタントメッセージ、音声会議、ビデオ会議などのコミュニケーション

ン手段を統合し、状況に応じた適切かつ効率的なコミュニケーションを実現することを目的としている。

今回新たに、以下の3つの新サービスを発表した。

(1)「UC&C Voice Transformation(UC&C ボイストランスフォーメーション)」:PBXの集約化や、既存PBX環境を保護しながら、ユニファイドコミュニケーションの機能を実装するなどPBXやIPテレフォニー、そしてネットワークの最適化を行うためのソリューション。

(2)「UC&C Virtual Workplace(UC&C バーチャルワークプレイス)」:メールやポータルなどのソフトウェアやモバイル環境の統合も含めた、ビデオコラボレーションやユニファイドコミュニケーション環境の構築から保守まで対応する。ロードマップ策定サービスからネットワークアセスメント、並びに環境設計、導入サービスなどが提供される。

(3)「UC&U Communications Enabled Solutions(UC&C コミュニケーションズ イネーブルド ソリューションズ)」:集約化によるコストの最適化を行うコンタクトセンターインフラ環境の構築や、ビジネスプロセスにコミュニケーション機能を統合するソリューション(CEBP)の提供。ヘルスケア業界および金融業界向けに提供する予定という。

これらの3つのサービスは、マイクロソフト、アバイア、ポリコム、アルカテル・ルーセントとのグローバルな協業をベースとしたもので、国内でもUC&Cソリューションを強化し、ユーザのコミュニケーション環境の最適化を図ることを目的に、各ベンダーのユニファイドコミュニケーション製品をインテグレートした新サービスを提供する。サービス提供にあたっては、日本HPのコンサルタント/エンジニアがユーザへの導入をサポートする。3月1日より提供開始する。

NTT アドバンステクノロジー、RADVISION 社製の HD テレビ電話開発プラットフォーム最新版をリリース

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、RADVISION 社(ラドビジョン、イスラエル、日本法人: RADVISION Japan 株式会社)が開発したHD対応テレビ電

話開発プラットフォームの最新のバージョン「BEEHD for Desktop v2.2」を2月14日よりリリースすると発表。(2月9日)

BEEHD for Desktop v2.2は、Windows OS 対応 PC 向け HD テレビ電話開発プラットフォームで、日本国内では NTT-AT が販売している。

従来のバージョンでは、SIP のみに対応していたが、今回リリースの v2.2 では、H.323 通信プロトコルの他、映像符号化については、H.264/SVC (H.264 Annex G)、また、映像・音声品質を安定させるビデオ・音声 FEC(Forward Error Correction:前方誤り訂正)や、ビットレートや解像度を自動調整する RADVISION 独自アルゴリズム(Net Sense)などの機能が追加されている。

映像コーデックは、H.264/AVC、H.264/SVC、H.263、音声コーデックは、G.711、G.729、G.722.2、G.722.1。解像度は、QCIF、CIF、4CIF、VGA、SVGA、720p。フレームレートは、~30fps。帯域は、128kbps から 2Mbps。対応 OS は、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 32/64bit。

BEEHD for Desktop は、HD テレビ電話ソフトの開発を協力にサポートするもので、以下の特長がある。

(1)通信プロトコルやコーデックの知識が十分でなくても HD テレビ電話ソフトの開発が容易である。

(2)他のベンダーとの相互接続の知識が十分でなくても他ベンダーとの接続を容易に実現することが可能。

RADVISION 社製通信ミドルウェアは、世界の通信機器ベンダーに広く採用されているため、国内・国外で新規に投入される他ベンダーとの通信機器との接続も容易に実現するという。

(3)RADVISION 社製映像コーデックを搭載しているため機能拡充が迅速に実現する。

(4)テレビ電話ソフトとして使用できるサンプルアプリケーションをソースコードで付属している。

NTTアドバンステクノロジーによると、今後は、資料共有プロトコル H.239/BFCP や PresenceIM(SIMPLE、XMPP/Jabber)をサポートする予定という。

なお、BEEHD for Desktop v2.2 の評価版は、RADVISION

社サイトよりダウンロードが可能となっている。

価格は、プロジェクトの内容と規模に応じて異なるため詳細は、問い合わせが必要。



日本サムスンと RADVISION ジャパン、VC240 の新機能 (V2.5) を発表、共同記者説明会を実施

日本サムスン株式会社(東京都港区)と RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)は、1月25日、日本サムスン本社において、共同記者説明会を開催。両社が共同で開発したテレビ会議専用端末「SCOPIA VC240」への新機能 (V2.5) の説明とデモが行われた。(1月25日)

VC240 は、サムスン製 24 インチワイド液晶画面に、HD カメラやスピーカー、エコーキャンセラー付きマイクと、RADVISION のビデオ会議エンジンを一体化したオールインワン型フル HD (720p 30fps) のビデオ会議専用端末。H.239 デュアルビデオ(データ共有)に対応。

今回発表された V2.5 では、H.264SVC の搭載に加え、

H.263 に対応。これにより、旧式のテレビ会議端末との間でも資料共有が行えるようになった。また、ファイアウォールの外にある端末との通信を可能にする NAT トラバース機能にも対応した。

VC240 の希望小売価格は、1 台 38 万円(税抜き)。ラドビジョンによると、市場に出回っている専用端末のおよそ半分の価格設定で、2 台で購入すればテレビ会議が構築できるという。ただし、3 拠点間接続以上の会議には、別途 MCU(多地点接続装置)が必要となる。

共同記者説明会で行われたデモでは、IP アドレス直接指定による VC240 のみによる 2 地点間接続の他、ラドビジョンのテレビ会議システム「XT 1000」を加えた、MCU を介した 3 地点間接続での資料共有などが披露された。

日本サムスンでは、2010 年の国内市場シェアは 1%であったが、2013 年までには 15%まで拡大する予定という。

*VC240 関連記事: 2009 年 8 月 31 日号掲載、2009 年 9 月 15 日号掲載。

IIJ、ブイキューブとのクラウド間連携、新たなビジュアルコミュニケーションサービスを提供

株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ、東京都千代田区)は、同社が提供する SaaS 型グループウェアサービス「IIJ GIO サイボウズ ガルーン SaaS」と、株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)の SaaS 型 Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」との機能連携を開始すると発表。(2月9日)

IIJ では、IIJ GIO サイボウズ ガルーン SaaS のオプションとして、V-CUBE ミーティングと機能連携を実現する「サイボウズガルーン for V-CUBE」の提供を開始する。

今回の機能連携で、IIJ GIO サイボウズ ガルーン SaaS のスケジュール画面上から、V-CUBE ミーティングの Web 会議の利用登録が可能となる。IIJ GIO サイボウズ ガルーン SaaS の会議室予約と同様の操作で Web 会議の利用登録を行うことができるようになるほか、社内外のミーティング参加者との Web 会議予約も会議室予約とあわせて一括で登録する

ことができる。

加えて、スマートモバイルデバイスの遠隔管理などを実現する「IIJ GIO スマートモバイルソリューション」を活用することで、iPad や Android 端末のスマートデバイスでもセキュアに両社のクラウドサービスが利用可能。

なお、今回の機能連携に伴い、ブイキューブと販売代理店契約も締結。V-CUBE ミーティングも同社より提供する。

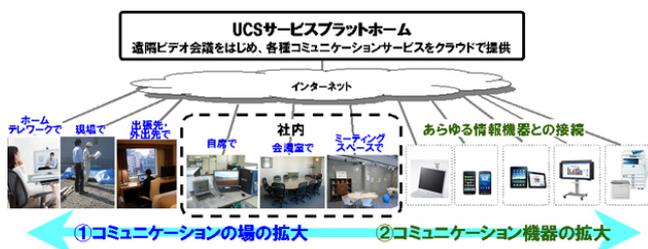
IIJ では、今までも IIJ GIO サイボウズ ガルーン SaaS を核として、他社サービスとのクラウド間連携を進めてきたが、今回のサービス連携を契機に、今後も機能連携を強化していく考えだ。

*サイボウズガルーン for V-CUBE 関連:2011 年 2 月 15 日号

ビジネス動向-国内

リコー、ユニファイドコミュニケーション市場へ参入、夏以降グローバルでクラウドサービス、端末製品の販売を開始

株式会社リコー(東京都中央区)は、ユニファイドコミュニケーション システム事業(UCS)を新規に立ち上げ、UC 市場に参入することを発表した。(2 月 7 日)



リコーUCS 事業が提供するシステム / サービスの全体概要図(リコー資料)

オフィスにおける情報器機やソリューション事業を展開しているリコーは、今後、映像や音声を活用するコミュニケーション領域にも事業を拡大する。UC 事業の世界展開で、5年後の2015年度は、1,000億円規模の売上(グローバル市場)を目指す。

UC 市場は、インターネットやクラウドサービスの拡大によって、今後グローバルで大きな成長が見込められ、今後、コミュニケーションの場の拡大に伴い、それを支えるコミ

ニケーション機器の拡大(多様化)も求められると見ている。

リコーのUC 事業としては、映像と音声、ドキュメント、テキスト、手書き入力等の多様な情報を統合して実現する「いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも、コミュニケーション」を、UCS の製品やサービスを通して、グローバルに提供していくという事業ビジョンを描く。

それを実現していく中で、さまざまなネットワークにおける異なった機器間の相互接続を実現するリコー独自のM2M 通信制御技術(IPアドレスにとらわれないリコー独自のID 技術)、米Vidyo 社のH.264/SVC 技術、さらには、SVC の利点を活かしたクラウドサービス構築技術といった3つの新技術をベースに、リコーの全世界に広がる販売・保守・サービスネットワークを最大限活用する考えだ。

そこで、リコーUCS 事業の第一弾の製品・サービスとして、ポータブルタイプ(1機種)と、会議室に設置するタイプ(1機種)を、2011 年度夏以降にグローバル市場で発売する。また同時に、クラウドサービスも提供も開始する。

その後の展開としては、多様化するニーズに応えるため、さまざまな機器との相互通信を促進し、製品やサービスのラインナップ充実を図っていくとしている。

製品・サービス動向-海外

Glowpoint 社、クラウドベースの B2B ビデオ会議サービスを開始

米 Glowpoint 社は、クラウドベースの B2B ビデオ会議サービス「Virtual Video Room(VVR)」サービスの開始を発表した。(2 月 10 日)

VVR サービスは、会議サービスを提供する上での拡張性やセキュリティに特長がある、同社提供の「Open Video」クラウドベースドシェアードインフラストラクチャーモデルの核になるもので、大企業から中小企業までのニーズに対応するビデオ会議サービスという位置づけ。

VVR テレビ会議サービスは、SIP、H.323、ISDN に対応しており、予約なしで多地点接続などの機能を利用できる。ポリコムやシスコシステム製端末との接続確認(compatibility)がと

れている。なお、このサービスはクラウドであるため、ユーザが多地点接続装置(MCU)を自社導入する必要はない利便性がある。

サービスを利用するにあたっては、ホスト用のピンコード(secure host pin code,4桁のランダムコードで会議開催毎に発行される。)に加え、参加者コード(participant code)を用いる。そして、URIダイヤルやISDNダイヤルイン(コールイン)を使って会議室へアクセスする。その他、会議前には、会議室に問題なく接続できるかを確認するための、事前のセルフ接続試験(self-certification)も可能だ。

なお、同プレスリリースによると、今回のサービス開始にあたって、ポリコム社とBroadSoft社からコメントが掲載されており、VVRサービスには、ポリコム社の「Polycom UC Intelligent Core(ポリコム UC インテリジェントコア)」が採用されていると記されている。

Glowpoint社は、ビデオ会議やテレプレゼンスのソリューションを提供する米企業。クラウドベースのVaaS(Video-as-a-Service)を提供しており、その中には、VNOCビデオオペレーションサービス、多地点ビデオ会議、B2Bエクステンジサービス(TEN)、ウェブキャスト、QoS IPネットワークオーバーレイサービス、テクノロジーホスティング&マネージメント、IP&ISDNゲートウェイ、プロフェッショナルサービスなどを提供している。

アバイア、Web コラボレーションプラットフォームの最新版を発表、アバターによるリモートコラボレーションを提供

米アバイア社は、「Avaya web.alive 2.5(アバイア ウェブドット アライブ)」を発表した。

Avaya web.aliveは、昨年9月に「Avaya Aura(アバイアオーラ)」のリリースと同時期に発表されたもので、遠隔会議やコラボレーションを拡張する形(expand on)で活用されるWeb コラボレーションプラットフォーム。個人用のアバター環境を使い、音声や映像、また、コンテンツ共有機能を組み合わせることで、効率よいコラボレーションを実現することを目

的としている。モートコラボレーションをより効率化することができるという。

主な機能としては、以下を提供している。(1)音の空間的広がり(spatial audio)を実現する「3D Audio Engine」、(2)標準で搭載されているデスクトップ共有機能やWebブラウジング、(3)既存の通信設備とのインテグレーションを可能にするSIP、(4)アバター環境をユーザニーズに応じて新しく設定することができるテンプレート、(5)コンテンツの作成やアップロードに活用できるSDK、(6)利用状況などのデータを踏まえて、効率的なコラボレーションへ導くための分析ツール。

このAvaya web.aliveは、SaaS(Software as a Service)型のサービスとして提供するほか、自社のサーバにインストールするオンプレミス(自社導入)にも対応している。SaaSとして導入する場合は、同時接続者数に基づいた料金設定(concurrent user based pricing)となっており、月額および年額支払いに対応している。シングルホスト(8人までの参加者)で月額価格は、49ドル。主要なクレジットカードに対応。この様に、サービスもしくは、オンプレミスの両方に対応することで、ユーザの導入ニーズに柔軟に対応できるとしている。

一方用途は、ミーティングの他、トレーニング、セールス活動、あるいは、サービス提供などでこのAvaya web.aliveを効果的に活用できると同社では説明している。

ビジネス動向-海外

リコーとVidyo社がパートナーシップを締結

Vidyo社(米国、ニュージャージー州)の発表によると、株式会社リコー(東京都中央区)は、Vidyo社とパートナーシップを締結した。(2月7日)

このVidyo社からの発表は、リコーから2月7日に発表されたUC市場参入に関連する発表となる。

リコーは、VidyoのH.264/SVC技術をリコーのUCソリューションに採用し、音声とビデオによるコミュニケーションに加え、図形やテキストさらには手描きの情報を共有する機能も提供する。今年中に、この技術を利用したポータブルタイプのUC端末と、ルームシステム端末発売が予定されているという。リ

コーは、2015年までに12.5億ドルの売上を目指す。

Vidyo社は、ヒューレット・パッカード社(HP)、株式会社日立製作所(東京都千代田区)、Teliris社、Intel社などとパートナーシップを締結している。また、2010年12月には、KDDI株式会社(東京都千代田区)とも締結している。

Vidyo社日本オフィスは、Vidyo ジャパン(東京都港区)。

Vidyo社、Web会議サービスのFuze Boxとパートナーシップ

米Vidyo社は、Web会議サービスのFuze Box社(米、カリフォルニア州サンフランシスコ)とパートナーシップを締結したと発表。(2月4日)

このパートナーシップによって、Fuze Box社は、Vidyo社よりH.264/SVCビデオ会議技術のライセンスを受け、Fuze Box社が提供するサービスにおいて、多地点のモバイルおよびデスクトップビデオ会議を実現する。

Vidyo社によると、同社の技術は、ライセンスパートナーが、多様な端末で実現するビデオ会議ソリューションを簡単にかつ迅速に提供することを可能にしている点に特長がある。またスマートフォンについては、「iPad」、「iPhone4」、「iPod」、「Galaxy Tab」、「Galaxy S」、「Google Nexus S」に対応している。

Fuze Box社は、1998年設立。本社はサンフランシスコ。カリフォルニア州サンタバーバラやブルガリアにもオフィスを持つ。Fuze Box社のWeb会議「Fuze Meeting」は、PCやMacの他、iPhone、iPad、Androidなどのスマートフォン端末にも対応する。Web会議以外には、「Fuze Messenger」、「Fuze Movie」、「Internet Fax」、「Voicemail-To-Text」、「Internet Answering Machine」、「HD Audio Conferencing」などを提供しているという。

Avistar社、IBM Lotus Sametime向けの3つのソリューションを発表

米Avistar Communications社(米国、フロリダ州)は、

「IBM Lotus Sametime」向けの3つのソリューションを発表した。(1月31日)

3つのソリューションは、Lotus Sametimeとシームレスに統合が可能なオールソフトウェアMCU。

今回発表されたソリューションは、以下の通り。

(1)「Avistar C3 Conference for IBM Lotus Sametime」。IBMのTCSPIインターフェイスを使い、プレゼンスや多地点ビデオ会議機能を提供するソリューション。ドイツのilink社と共同で開発した。ilink社は、Avistarのテクノロジーパートナー。テレフォニーインテグレーションソリューションを中心に事業をおこなっており、IBM Lotus Sametimeのインテグレーションも長年の実績があるという。

(2)「Avistar C3 Unified for IBM Lotus Sametime」。SIPやH.323のHDビデオ会議を実現するプラグインソフトウェア。

(3)「Avistar C3 Integrator」。Avistar C3 Unified for IBM Lotus Sametimeを、VDI(バーチャル・デスクトップ・インフラストラクチャー)やシンクライアント上(thin terminal)で実現するソリューション。

これらのソリューションによって、多地点ビデオ会議やそれに伴うMCUの導入コストの面でLotus Sametimeユーザの投資保護が行えるという。

Avistar社、マイクロソフト Lync 向けのプラグインソフトウェアを発表

米Avistar Communications社(米国、フロリダ州)は、「Microsoft Lync」向けのプラグインソフトウェアを発表した。(2月1日)

Microsoft Lync向けのプラグインとして、Avistar社は、「Avistar C3 Unified for MS Lync」を提供する。マイクロソフトLyncユーザ向けにビデオ会議を実現するソフトウェア。Lyncユーザのデスクトップ環境からルームビデオ会議端末などへの接続が可能になる。多画面分割による多地点接続会議の他、VDI(バーチャル・デスクトップ・インフラストラクチャー)、帯域制御などの機能を提供する。

同プレスリリースによると、Avistar社は、Logitech社のライ

フサイズ部門(2008年8月発表)やIBM(2011年1月発表)など多数のUCベンダーのソリューションとの連携などを展開しているという。

導入・利用動向

ウェスティンホテル東京、パブリック・テレプレゼンス・ルームの運用を開始

ウェスティンホテル東京(東京都目黒区)は、インドのタタ・コミュニケーションズ社および米シスコシステムズ社との提携により、「パブリック・テレプレゼンス・ルーム」を導入したと発表。(1月27日)



パブリック・テレプレゼンス・ルーム イメージ (ウェスティンホテル東京 資料)

今回、ウェスティンホテル東京に設置されるパブリック・テレプレゼンス・ルームは、親会社スターウッド ホテル&リゾートが擁する世界各地のホテル内に開設するパブリック・テレプレゼンス・ルームのひとつ。ウェスティンホテル東京での運用開始により、スターウッド ホテル&リゾートとしては、14施設目となる。

タタ・コミュニケーションズ社は、現在世界5大陸29拠点でパブリックルームを運営しており、パブリックルームのネットワークとしては世界最大という。ウェスティンホテル東京のパブリック・テレプレゼンス・ルームは、タタ・コミュニケーションズ社の通信回線「タタ・コミュニケーションズ・グローバル・ミーティング・エクスチェンジ」を通して、同社が開発したテレプレゼンスネットワークに接続する。この通信回線は、世界各地に展開しているパブリック・テレプレゼンス・ルームのほか、私設会議室(自社導入)を問わず、タタ・コミュニケ

ーションズと提携する他の通信会社のネットワーク上の世界各地のテレプレゼンス・ルームを結ぶことができる。

利用にあたっては、タタ・コミュニケーションズ社のポータルサイト(英語)での予約となる。主要クレジットカードによる支払いも可能。料金は、1時間あたり52,500円(税金、サービス料込)にて利用できる。

ウェスティンホテル東京 <http://www.westin-tokyo.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

【iPad, iPhone 同時配信】

いままでにない臨場感! 高画質 Web 会議体験セミナー

日時:3月1日(火)

第1回 12:00~13:00

第2回 14:00~15:00

*同じ内容。いずれかの時間帯を申し込む。

会場:オンラインセミナー

主催:シスコシステムズ合同会社

コラボレーションソフトウェアグループ

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/web-seminars/webseminar_030111.html?SourceId=hpg

*PC以外にも、iPhone、iPadでの参加可能。

会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日時:2011年3月2日(水)、9日(水)、16日(水)、23日(水)、30日(水)

*全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催

会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

スマートフォンとテレビ会議で業務革新! 最新情報システムセミナー in 広島

日時:3月11日(金)14:00~17:00(受付:13:40~)

会場:RCC文化センター(広島市中区)

主催:KDDI株式会社 ソリューション中国支社 /

株式会社 中国日立情報システムズ /

株式会社日立情報システムズ

詳細・申込:<http://www.hitachijoho.com/seminar/2011/03/0311i.html>

(次のページへ続く)

導入事例から学ぶ**成功する Web 会議の選定術と運用術をご紹介セミナー**

日時:3月17日(木) 15:00-17:00

会場:キャノンソフト情報システム 大阪本社
(大阪市中央区)

主催:キャノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1250>**導入事例から学ぶ****成功する Web 会議の選定術と運用術をご紹介セミナー**

日時:3月24日(木) 15:00-17:00

会場:キャノンソフト情報システム 東京支社
(東京都豊島区)

主催:キャノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1251>**劇的経費削減をもたらす Web 会議選びのポイント
姿を現した劇的経費削減と CO2 排出削減を実現する遠隔会議
サービス SaasBoard3.0**

日時:2011年3月24日(金) 13:30~17:00

会場:渋谷区商工会館

主催:ニューロネット株式会社、ライド株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

< 海外 >

**TeleSpan's Sixth Annual Future of Conferencing
Workshop (有料、アーバード割引 2月1日まで)**

日時:2011年3月17日-18日

会場:Palace Station(米国ラスベガス)

主催:TeleSpan Publishing Corporation

詳細・申込:<http://www.telespan.com/workshop/index.html>**海外専門誌情報**

海外には、遠隔会議の専門誌/ポータルサイトが欧米を中心に結構あります。読者の皆さんはすでにご存じの方も多と思いますが、下記ご紹介します。私も有益な情報源として参照しています。(橋本)

ニュースサイト

- Conferencingnews.com <http://www.conferencingnews.com/>
- Electronic TeleSpan <http://www.telespan.com>
- eConferencing News <http://econferencingnews.com/>
- DiscussUC.com <http://www.discussuc.com/>
- TelepresenceOptions <http://www.telepresenceoptions.com/>
- Videoconferencing Insight <http://www.vcinsight.com/>
- Videoconferencing In Europe <http://www.vtron.de/>
- Wainhouse Research Bulletin <http://www.wainhouse.com/>

Web 会議ツール比較サイト

- Online Meeting Tools Review
<http://www.webconferencing-test.com/>

ビデオアーカイブ

去る1月31日と2月1日、ウェインハウス社主催による The WR Visual Communications Summit がアムステルダムで開催されましたが、その際の講演セッションの録画ビデオが下記 URL でストリーミング視聴(無料)できます。

<http://empoweredbybrick.com/wainhousesummit/>

The WR Visual Communications Summit 詳細

<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=395>Wainhouse Research, LLC <http://www.wainhouse.com>**編集後記**

今回もご覧いただきありがとうございます。

海外の遠隔会議に関する情報も日々大量にしかも迅速簡単に受信できる時代になりました。

私は、インターネットがまだ普及していないころに海外雑誌を購読したりしていましたが、海外の情報を得ることは当時、費用的にも手間的にもとても大変だったと記憶しています。

ところが、今はインターネットを通して、海外の友人などと同じタイミングでさまざまな情報などが得られるというのは、とてもすごいことだと改めて思っています。またそればかりか、手紙の一往復に数週間から1ヶ月かけていた海外文通をやっていた昔を思い出すと、昨今のメールやチャット、掲示板、ツイッター、ソーシャルネットワーク、あるいは、VoIPなどの登場や広がり、やはり驚きの一語に尽きますね。私たちは、今すごい時代に生きているのだと感ぜずにはられません。(単細胞ですからご勘弁ください！)

でも、そういった時代の動きの中で、私は、とりわけ遠隔会議が今後どう進化していくのか、とても楽しみです。

また次回もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介